

第23回東日本事例研究オンライン研修会 発表概要シート

法人名	社会福祉法人聖隷福祉事業団	施設名	油壺エデンの園
発表タイトル	いつまでも自分らしく健康で…第2報 ～喫食率と基本チェックリストの相関分析～		
研究の目的	喫食率（入居者が園の食事を注文する割合）が、入居者の生活や健康状態に及ぼす影響を量的評価する。 栄養・食事に関する支援の方向性を具体化し今後のサービス提供につなげる。		
発表の概要	フレイル予防の柱の一つである「食事・栄養」に着目、油壺エデンの園入居者のそれぞれの喫食率を基本チェックリストの結果と照合、相関分析を行い、相関関係のあるデータをグラフ化して報告、結果の因果関係を考察し、今後の課題を策定した。		
研究方法	2015年～2021年度に提出された基本チェックリストの結果（延べ人数525人・延べ提出数2150件）及び、提出者の提出年度それぞれの喫食率を相関分析し、結果の因果関係を考察する。 ※基本チェックリストは、1回/1年（毎年一月）に、自立の入居者に記入と提出を依頼しており、毎年度300件前後の提出がある。		
成果・結果	①喫食率が低い方は、肥満の割合が多い。 ②自炊を継続できている方は、自立度が高い。 ③喫食率が高くなると、心身機能に問題が生じている可能性も高くなる。		
考察	①喫食率が高い方の多くは標準体重を維持しており、その要因は、園が提供する栄養バランスのとれた食事と考える。 ②自炊や買物では、調理をするための身体機能、金額の計算や、献立を考え計画をする認知機能、それら複数のことを同時に行うデュアルタスク能力等を必然的に必要とするため、フレイル予防を促進していると考えられる。 ③運動器に問題が生じると閉じこもりになり、生活機能全般に問題が生じる。必然的に食事を自身で用意することは困難になり、園の食事を摂取する。喫食率が高いことは、自分では食事の用意が困難と置き換えることもできる。 加齢や心身の変化で食事の選択肢が狭まる前に状態変化を把握し、買物の手段や調理の工夫等、必要な助言や支援をするための、各部署や職種での連携強化が、喫食率の向上に向けた取り組みと並行し、今後の課題として明らかになった。		
アピールポイント 伝えたいこと	2021年より、研究活動を継続していること。 2000件を超えるデータを用いて分析を行った。また、相関分析を行うことで、一つのデータだけではなく、それぞれに関連するデータから生活状況をより深く推測することができた。 昨年度は、入居者の性別、年齢、要介護認定の取得等、基本データから得られる数値の分析を行ったが、今年度は、「喫食率」「基本チェックリスト」といった、実際の生活状況の結果に研究対象を掘り下げたことで、より入居者の具体的な生活状況の把握と支援の方向性が具体化された。		